

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1036
施設名	かがやき保育園
施設所在地	江東区大島7-37-13
法人名	社会福祉法人わかみや福祉会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

毎月自由画を行っているが、個人差はあるものの段々と色の名前を覚えていたことや導入などで使う色の絵本に興味をもち集中していたことから「色」をテーマに選んだ。

## 2. 活動スケジュール

- ①色氷あそび 令和6年8月7日、8日
- ②色水あそび 8月26日、9月26日
- ③アクリルつみき 1月14日、1月29日
- ④自由画（色混ぜ） 2月18日
- ⑤いろかるた 2月28日

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ①色氷（赤、青、黄、緑）、白画用紙（Tシャツ型） 保育室 1テーブルに2人ずつ
- ②えのぐ、筆、透明コップ、ビールケース、タライ（水をはったもの）テラスにて全員
- ③アクリルつみき 保育室にて全員（天気の良い日に、室内の電気を消し窓際で行う）5セット使用
- ④白画用紙、クレパス 保育室 1テーブルに4人ずつ
- ⑤いろかるた、ライトテーブル、トレース台 保育室 1テーブルに5、6名 3交代で行う

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

活動①：色氷でおえかき

Tシャツ型の白画用紙に色氷を使用し、模様をかく。

活動②：色水あそび

1人1カップを使い、三原色から好きな色を選びカップに色水を作っていく。作った色をジュースなどに見立てて遊ぶ。

活動③：アクリルつまき

5セットを全員で使用。窓際で太陽光を利用しながら、アクリル積み木の色が床に写る様子を楽しんだり、木製の積み木同様に積み重ねて遊ぶ。

活動④：自由画（色混ぜ）

保育者が色を重ねて塗るという事を見本で見せ、興味を持った子が真似をして楽しむ。

活動⑤：いろかるた

白い土台の上でいろかるたを重ね色の变化を楽しむ。導入で使用した絵本に出てくる色と同じ色ができるか照らし合わせて遊ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動①

・氷の溶け具合によって、画用紙への色づきが変わるため、角を使って線を描く子もいれば、ぐるぐると色づく様子を楽しむ姿が見られた。スタンプのようにして色をつける姿も見られた。ある程度氷が溶けてくると色づきがよくなり、次々と色を変えて楽しむ子も多かった。

活動②

・保育者が見本で作った色を真似して作ろうとする子もいれば、好きな色を混ぜてできた色をジュースに見立てて保育者に伝える子もいた。保育者が飲みたいもののリクエストをすると「いいよ!」と張り切って作ってくれる姿も見られた。

活動③

・保育者は太陽光を受けて床にアクリルつまきの色がうつる事を予想し導入を行ったが、導入時につまきに反射した光が天井や壁にうつっていることを子ども達が発見した。つまきを動かし光が動く様子に興味を持ち、壁に向かって手を伸ばし光を写そうとする子や、窓につまきをあてて天井にうつっているかを確認する子もいた。

・円柱状（薄いもの）に光があたり、床に弓の光がうつった事に気づき、つまきを動かす子もいた。

活動④

・全員で色混ぜを行った訳ではないが、保育者の真似をして色を重ねて塗る子もいた。中には線がわからなくなる程力強く塗りこむ子もいた。色が重なり、変わっていく様子を楽しんでいた。

活動⑤

・カードを重ねて色ができると嬉しそうに保育者に見せる子もいれば、目の前にあててメガネのように使用する子もいた。高月齢の子はできた色をテーブルに並べて色見本のようにして遊ぶ姿も見られた。

絵本と見比べ、「これはどうかなあ」などと言い友達同士で会話を楽しみながら遊んでいた。

ライトをつけると「あかるくなった!」と驚き、喜んでいた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・色あそびを通して様々な素材に触れることができた。保育者は色の混ざり方が違う事がある程度予想することができるが、子どもにとっては素材によつての違いが新鮮だったようで、不思議そうにする姿が見られた。（色氷あそびの際に、たくさん色を重ねたが最後の色がうまく画用紙にあらわれず不思議そうにする姿が見られた。）
- ・アクリル積み木は子ども達にとって扱いやすい素材だったように思った。普段から積み木を使っていることもあり、長時間集中して楽しむことができていた。保育者は予想していなかったが、子ども達は天井や壁にアクリル積み木に反射した光がうつることが楽しかったようで、窓にあててみたり、手で持って動かしてみたりと試行錯誤しながら遊んでいた。
- ・色々な活動を通して、友達や保育者がやっていることが「おもしろそう」「自分もやってみたい」という意欲に繋がっているということを改めて感じた。いかに保育者が「やってみたい」と思えるような工夫や働きかけをしていくかが大切だと思い、今後も意欲に繋がるような関りを意識して保育をしていきたい。